

PAGE2010 ご挨拶

社団法人日本印刷技術協会（JAGAT）会長 浅野健

社団法人日本印刷技術協会（略称：JAGAT、本社：東京都杉並区、会長：浅野健）は、2010年2月3日（水）から5日（木）までの3日間、サンシャインシティコンベンションセンターTOKYO（東京・池袋）におきまして「PAGE2010」を開催いたします。PAGE展は、今回で23回目を迎えることとなります。これもひとえに皆様方のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

100年に一度の大不景気、全治3年などと言われておりますが、皆さんはどう思われるでしょうか。当初は、言葉そのままなのだ和理解しておりましたが、100年に一度というのは、100年に一度ある大不景気・大不況と言う意味ではなく、100年に一度世紀が変わるちょうどその時に起こった大不景気という意味ではないかと感じています。20世紀から21世紀へと世紀が変わったのは10年前になりますが、それはあくまでも暦上での話です。その当時、劇的に何か変わりましたでしょうか。何も変わっていなかったように思います。しかし今20世紀はソフトランディングを終え、21世紀がソフトテイクオフし、完全に21世紀を迎えたのだと実感しています。

例えば、20世紀は大量生産・大量消費の時代と言われていますが、現在はどうなっているのでしょうか。「多品種小ロット」、つまり多様化の時代を迎えています。みんなが一つのを求めた時代から、一人ひとりライフスタイルや個性が多様化し、あらゆるものに対して同一のものを求めない時代となりました。メディアもその一つとして捉えると、長い間人類のオンリーワンメディアを担当してきた印刷・紙媒体も多様化を迎え、紙媒体だけが情報伝達をするメディアではなくなってきました。

そのような折、昨年PAGE2009は新しいグラフィックビジネスの船出として「ゼロリセット」を宣言いたしました。そして今年度は「リセット」に対して「新生」となるべく、「新生グラフィックビジネス」をキャッチフレーズにPAGE2010を開催いたします。アナログからデジタルに移行する期間、DTPはその幕開けとなり、デジタルのDTPからデジタルプレスへと進化してまいりました。これらはもう「当たり前」のことになっています。そのような時代に「デジタル」にスポットライトを当てる必要はないのかもしれませんが、デジタルだけでは製品になりえません。デジタルの部分とアナログの部分が上手くかみ合っ

てこそ、喜んでいただける製品や一つのサービスができあがっていくのです。今回、「新生グラフィックビジネス」ではデジタルとアナログの「ハイブリッド」を一つのテーマにいたしました。アナログの良さ、そしてアナログでなければできない技も取り上げ、その上でデジタルの情報処理、あるいはデジタルプレスなどとのコラボレーションを皆さんに改めてご覧いただき、ご認識いただけるような場にしたいと考えています。

このPAGE2010の展示会、特別コーナー、コンファレンス等を通じ、新生グラフィックビジネスのための「ヒント」「発見」「情報収集」をしていただければ幸いです。